

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～こんなとき どうしたら、どう考えたらいいのでしょうか？～

「私には、なんで辛いことや苦勞がこんなに多いのだろう。

これでいいのかなあ？」

こんなとき、どうしたら、どう考えたらいいのでしょうか？

この通心（信）でよく紹介している ひすい ことろう さんは・・・

『人生のラストシーン。

最悪の思い出は・・・

最高の思い出に変わる。』

だそうです。では、どうぞ



ある方が、老人ホームで・・・

「これまでの人生で、一番幸せだったことは？」

と、問いかけたら、みなさん「は？」「幸せ？」という感じで、全く盛り上がらなかったそうです。

しかし、次のように問いかけたら・・・俄然盛り上がった！

「これまでの人生で、一番心に残っていることは？」

この質問に、おじいちゃん、おばあちゃんは、みんなイキイキ話し始めたそうです。

どんな話かという・・・

それぞれの苦勞話を！

「イヤイヤ、わしの方がもっと大変だった！」

「いやいや、わしの方が！」・・・

と、不幸・苦勞の自慢合戦となった。

その苦勞話をしているときの顔がまた・・・

最高にイキイキして、輝いていた！

その方は、「なにがなんだかわからなくなった」と言います。

「人は、幸せになるために生まれてきたのか・・・

それとも・・・苦勞を楽しむために生まれてきたのか。」

幸せって、振り返ったときにそこにあるものなんです。

大変なことに直面し、逃げ出すこともできず、泣きながら向き合った思い出が、いつの日か、かけがえのない思い出に変わります。

人生には2つの贅沢な時間があります。

楽しんでいる時間か、学んでいる時間。辛いときほど、深く深く学んでいるのです。

「1秒でこの世界が変わる70の答え」ひすい ことろう（ディスカバー21）より



どうでしたか？・・・

「幸せって、振り返ったときにそこにあるものなんです」「辛いときほど、深く深く学んでいる。」

だから・・・いま辛くたって・・・困難がやってきても・・・自分で解決しよう克服しようとするのも大事ですが、一人で抱え込むことなく・・・周りの友だちや大人に相談したりして・・・
なんとか乗り切っていこう！それが人生の最高の思い出になるのだから・・・